



市議会だより

かかみがはら

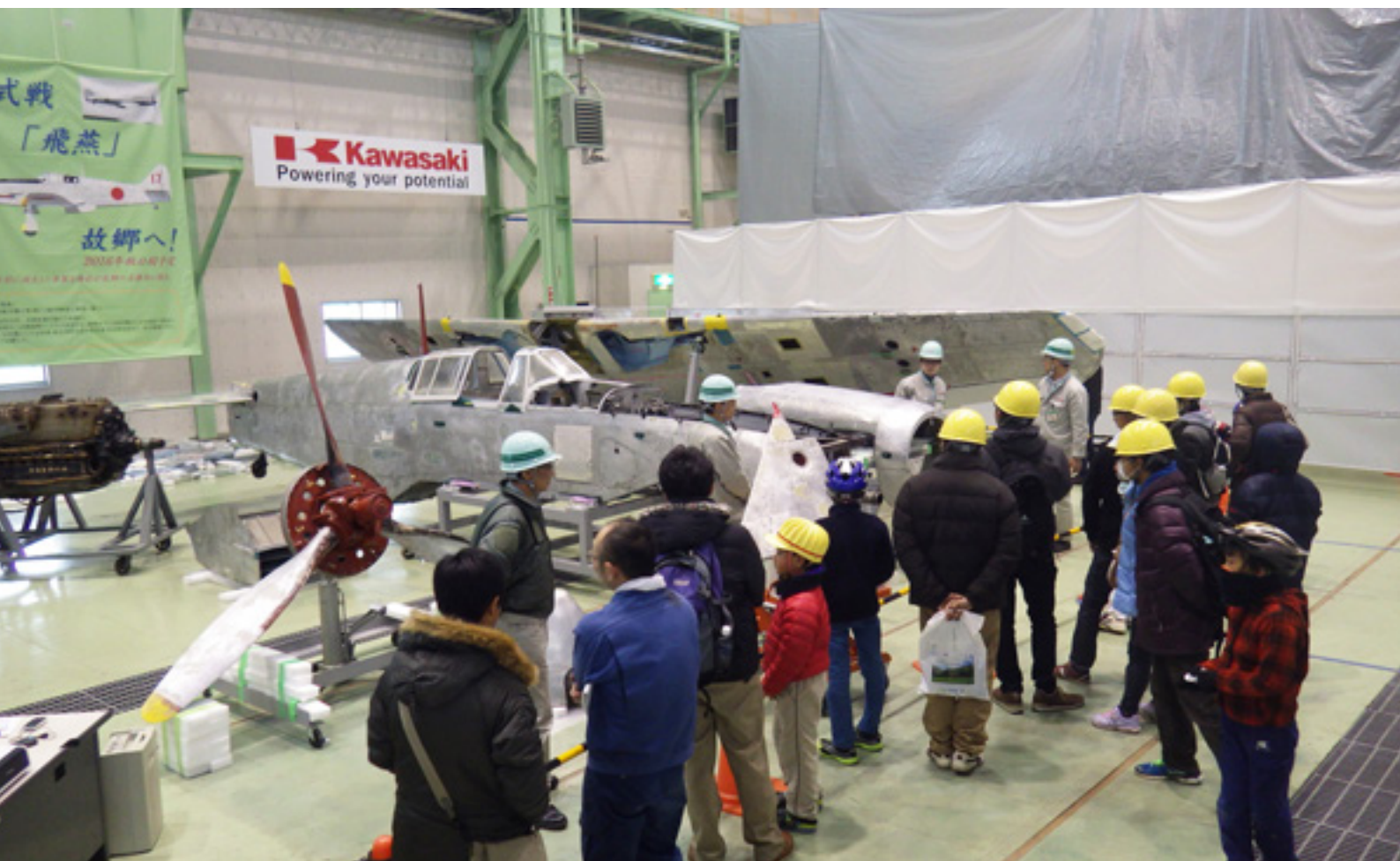
発行

各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集

市議会だより編集委員会



修復中の飛燕^{ひえん}を見学する親子（1月23日・川崎重工業岐阜工場）

12月定例会

主な議案	2	市政を問う 一般質問	
委員会審査	3	行財政改革の総括	7
審議結果	4	高齢者の外出促進	8
委員会調査報告	5	アメリカの大学と連携協定	9
市政を問う 会派の代表質問		未来を担う子どもたち	10
人口ビジョンと市の政策	6	市議会だよりをアプリで配信	11
市の防災体制	6	市民の声、ひとこと	12

平成27年度一般会計補正予算

3億6209万7千円を追加

小中学校校舎外壁改修事業など

平成27年第5回定例会を11月30日から12月22日までの23日間の会期で開催しました。
市長から提出された議案は、平成27年度一般会計補正予算をはじめとする25案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり可決・同意しました。

平成27年度
一般会計補正予算

尾崎小学校など11校の

小中学校における校舎外壁改修事業をはじめ、選挙権年齢の引き下げに伴う選挙システムの改修や幼稚園就園奨励事業など、当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算にそれぞれ3億6209万7千円を追加するもので、補正後の予算総額は470億2808万5千円となりました。

歳入の主なもの

○国庫支出金

1億1641万9千円

○県支出金

1419万4千円

○市債

1億8060万円

歳出の主なもの

○小中学校校舎外壁改修事業

尾崎小学校など7校の小学校と、桜丘中学校など4校の中学校の外壁が老朽化しているため、改修を行うものです。

2億6224万5千円

○小学校校舎建設事業

鶴沼第一小学校と陵南小学校の教室（学童保育室兼用）が不足するため、仮設校舎を整備するものです。

3421万6千円

○学童保育室運営事業

児童福祉法の改正に伴い、学童保育室に入室で

きる対象年齢を小学6年生まで拡大するため、備品などを整備するものです。

518万7千円

その他の議案

工事請負契約の締結

鶴沼市民サービスセンター1庁舎建設工事（建築）の一般競争入札を行ったところ、1回目、2回目ともに落札者がなかったことから、最低価格入札者である協和・足立特定建設工事共同企業体と予定価格範囲内の3億5154万円で随意契約を締結するものです。

財産の無償譲渡

平成18年に民営化した



譲渡される蘇原西保育園

蘇原西保育園（旧蘇原西保育所）の園舎などを、今まで以上に安定的かつ良質な保育の実施を図るため、現在同園を運営している社会福祉法人瑠璃光会に無償譲渡するものです。

意見書

今定例会に議員から意見書が提出され、全会一致で可決しました。

可決した意見書は、衆参両議院議長と各関係行政庁に送付しました。

○TPP交渉結果の情報開示と万全な国内対策を求める意見書

新庁舎建設特別
委員会の中間報告

平成27年3月に設置した新庁舎建設特別委員会は、12月までに6回の委員会と2回の先進地視察を実施しました。

その中で、一番大きな検討事項であった新庁舎の建設場所についての結論が出たため、12月定例会において、これまでの協議内容と結果の中間報告を行いました。

建設場所の協議では、現庁舎の敷地が、長年市民に親しまれている場所であること、国道21号線などからのアクセスがよいこと、用途地域の変更が無いため建設までの期間を短縮できること、消防本部や岐阜基地に近く災害対応に適していること、周辺道路などのインフラ整備を行う必要が無いことなどの理由から「現庁舎敷地が一番望ましい」との結論に達し、今後さらに協議を進めていくことを確認しました。

委員会審査

今期定例会に提出された各案件を詳しく審査するため、12月17日と18日の2日間で委員会を開催し、審査を行いました。
各委員会での主な質疑内容は次のとおりです。

民生消防
常任委員会高齢者生きがいセンター
条例の一部改正（稲田園・川島園）

▼問 高齢者生きがいセンターの介護予防事業を廃止する理由は。

▽答 1点目は、利用率が極めて低いということ。2点目は、団塊の世代が後期高齢者となる10年後を意識したとき、主に虚弱な方を対象としている現在の介護予防から、元気な高齢者を含めたそれぞれ身体の状況に合った参加しやすい介護予防を展開するためである。

学童保育室条例の一部改正

▼問 学童保育の年齢拡大について、子ども・子育て会議ではどのような

議論がされたか。

▽答 「子育てしやすい環境になる」「子どもの思いを優先するか、大人の思いを優先するか」などさまざまな議論がされた。女性の就労機会の拡大などにより、年齢拡大は必要との結論になったが、親の都合で安易に受け入れは行わないようにとの意見も付け加えられた。

建設水道
常任委員会

火葬場及び霊柩車条例の一部改正

▼問 現在、霊柩車はどのように運行しているか。

▽答 霊柩車の所有は市だが、運転業務については平成25年度から委託している。

▼問 個人での申請による霊柩車の使用実績は。

経済教育
常任委員会

平成27年度一般会計補正予算（所管分）

▼問 ふるさと納税の寄付件数と金額の現状は。

▽答 11月末現在で1万3571件、1億9351万円である。

当初予算では、1万8400件、2億4千万円を想定していたが、見込みより多く寄付を頂けそうなので、最大2万件、2億9千万円の寄付と想定して、関係する補正額を計上した。

農業委員会に関する条例の一部改正

▼問 農業委員の役割は

どのように変わるのか。

▽答 これまで行ってきた業務に加え、担い手への農地利用の集積や耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進など農地利用の最適化を行う。

▼問 新設の農地利用最適化推進委員の役割は。

▽答 農地利用の最適化のため、農業委員と連携を密にして、特に地域の現場活動を重点的に行う。

総務常任委員会

工事請負契約の締結（鵜沼市民サービスセンター庁舎建設工事（建築））

▼問 1回目の入札では6者が参加し、2回目はそのうち3者が辞退しているが、その理由は。

▽答 2回目の入札は、1回目の入札の最低価格以下で求めているので、その価格で入札をできない方が辞退された。

平成27年度一般会計補正予算（所管分）

▼問 鵜沼第一小学校と陵南小学校で仮設校舎を

リースとした理由は。

▽答 新築の場合は建築資材を再調達する経費が必要となる。

中期的には児童数が減少し、校舎内の教室に余裕が生じることなどを踏まえ、リースの方が合理的・経済的と判断した。



新たに建設される鵜沼市民サービスセンター（イメージ図）

審 議 結 果 (12月定例会)

- 新庁舎建設特別委員会の中間報告・・・・・・・・・・ 承 認・賛成多数
- 人権擁護委員候補者の推薦(金武菊代氏)・・・・・・・・ 原案同意・全会一致
- 平成27年度一般会計補正予算(第3号)・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 平成27年度介護保険事業特別会計補正予算(第2号)・・・・ 原案可決・賛成多数
- 平成27年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)・・・・ 原案可決・全会一致
- 平成27年度下水道事業特別会計補正予算(第2号)・・・・ 原案可決・全会一致
- 市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の
 一部を改正する条例・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 市税条例等の一部を改正する条例・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 出張所設置条例の一部を改正する条例・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 国民健康保険条例の一部を改正する条例・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 高齢者生きがいセンター稲田園条例の一部を改正する条例・・・・ 原案可決・賛成多数
- 高齢者生きがいセンター川島園条例の一部を改正する条例・・・・ 原案可決・賛成多数
- 介護保険条例の一部を改正する条例・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 学童保育室条例の一部を改正する条例・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例・・・・ 原案可決・全会一致
- 公民館条例の一部を改正する条例・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 農業委員会に関する条例の一部を改正する条例・・・・ 原案可決・賛成多数
- 火葬場及び霊柩車条例の一部を改正する条例・・・・ 原案可決・賛成多数
- 工事請負契約の締結(鵜沼市民サービスセンター庁舎建設工事(建築))・ 原案同意・全会一致
- 財産の無償譲渡(蘇原西保育園(旧蘇原西保育所))・・・・ 原案可決・賛成多数
- 公の施設の指定管理者の指定(鵜沼三ツ池集会場ほか29施設)・・・・ 原案可決・全会一致
- 公の施設の指定管理者の指定(学びの森駐車場ほか7施設)・・・・ 原案可決・賛成多数
- 公の施設の指定管理者の指定(勤労者野外活動施設いこいの広場伊
 木の森)・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 農業委員会委員の過半数を占める者・・・・・・・・ 原案同意・賛成多数
- 市道路線の認定(市道鵜1383号線ほか3路線)・・・・ 原案可決・全会一致
- 人づくり講師や特別支援アシスタントの増員に関する請願・・・・ 不 採 択・賛成少数
- 安全保障関連2法(国際平和支援法、平和安全法制整備法)の廃止を
 求める意見書採択についての請願・・・・・・・・ 不 採 択・賛成少数
- TPP交渉結果の情報開示と万全な国内対策を求める意見書・・・・ 原案可決・全会一致

委員会調査報告 (他市への視察)

新庁舎建設特別委員会

〈期間〉7月16日～17日

○東京都青梅市

本市と人口規模や財政力が似ている青梅市は、旧庁舎敷地内に平成22年7月に新庁舎が完成した。市民が日常的に利用する主な窓口を1階にまとめ、ワンストップサービスに対応した配置として

いる。また、各階に多目的トイレを設置したほか、視覚障がい者向けに白杖認識音声誘導システムやトイレ内音声案内を、聴覚障がい者向けにフラッシュライトとLED文字表示による異常連絡や、会議室などに補聴器拡声磁気ループを導入するなど、ユニバーサルデザインに配慮した造りとなっている。

地震など災害への備えとして、庁舎を免震構造

としたほか、災害対策本部の常設や自家発電設備、簡易マンホールトイレ、防災備蓄倉庫の設置など、防災拠点としての機能も備わっている。

自然換気システムや太陽光パネルの設置、屋上緑化などの省エネルギー設備や自然エネルギーの活用など、環境への配慮もあり、いろいろな角度から庁舎機能について考えられており、今後の本市の新庁舎建設において非常に参考となる庁舎であった。

そのほか、東京都立川市と山梨県甲府市の庁舎を視察した。



新庁舎1階の様子(青梅市)

市議会だより編集委員会

〈期間〉10月21日～22日

○長崎県諫早市

市議会だよりの記事に関するクイズを設け、正解者にはプレゼントを送付する取り組みを行っている。

また、議員が行った過去の一般質問に対する市の現在の取り組み状況を確認し、記事として掲載している。

より多くの市民に読んでもらうため、クイズの導入や個性的な記事の掲載など、他市の特色ある事例を積極的に取り入れているとのことであった。

○福岡県うきは市

市議会だよりを発行するということとは、うきは市議会にとつて大変重要なことだと考えられている。

そのため、市議会に設置されている二つの常任委員会の委員長が、市議会だよりの編集を担当する広報・広聴委員会の委員長、副委員長を兼任している。

そうすることにより、

権限のある重要な委員会として位置付け、所属する委員も、経験豊富な議員を選任している。

また気軽に読んでもらうために、すべてのページをフルカラーで発行している。

両市とも先進的な取り組みを多く取り入れており、本市の市議会だよりにおいても参考となる事例を学ぶことができた。



市議会だより編集委員会視察(諫早市)

議会運営委員会

〈期間〉11月10日～11日

○静岡県焼津市

それぞれの常任委員会で一つのテーマを決めて調査研究を行い、議員全

員協議会での中間報告・議員間討議を経て、市長へ提言する「政策提言」を積極的に進めている。

○静岡県富士市

一般質問などで、答弁者である市長や職員が、質問をする議員に対し、根拠を確認するなど逆質問することができ、反問制度を導入している。

また、自治会やNPOなどからの推薦5人、一般公募5人の計10人を議会モニターとして委嘱し、本会議や委員会の傍聴をしてもらっている。

年度末にはモニター会議を開催し、そこでの意見を改善につなげている。

○神奈川県小田原市

議会の活動を「見える化」することにより力を入れており、議会報告会や市民アンケートを実施するなど、広報広聴の充実と情報公開を積極的に行っている。

三市ともそれぞれ独自の改革を行っており、本市の議会活性化においても参考としたい。

市政を問う 会派の代表質問

12月14日に各会派の代表質問を行いました。

政和クラブ・川嶋一生、市議会公明党・横山富士雄

※代表質問は、各会派の政策・主張に基づき市政に関して質問をするもので、各会派で作成された原稿を掲載しています。

人口ビジョンと市の政策 地域人口分布変動に伴う市の形勢

和政
クラブ

▼問 地域単位での人口変動予測は。

▼答 本市の人口が平成72年には10万人まで減少すると推計される一方、川島地区や那加前洞地区、鶴沼東部の桜木町など住宅需要の受け皿となる土地が残る地区では、増加傾向が続くと考える。

今後、地域要因に伴う人口増減の地域差が生じるものと予測する。

▼問 課題と打開策は。

▼答 人口減少により、地域コミュニティの低下が懸念されるだけでなく、空き家の増加や商店の撤退、地域公共交通の衰退など、市民生活に直結する問題が浮き彫りとなっている。

そのため、総合戦略に基づき人口減少に歯止めをかけながら、状況を見逃すことなく、地域の実情に応じた効果的な施策を展開する。

▼問 人口分布変動に対する学校施設利用の在り方は。

▼答 母校は心のふるさとであり、地域コミュニティの単位でもあるため、いつまでもあり続けなければならぬ。

そのため今後は、単に児童生徒数の減少や経費削減という側面だけをとりえるのではなく、児童生徒数の将来見通しや施設の老朽化などを踏まえ、各学校の特色や地域とのかわり、歴史的経緯、地域や保護者の要望などを尊重しながら総合的に判断し、学校施設の複合的な活用を検討していく。

▼問 障がい者の生活介護事業の拡充と、入所施設整備の考えは。

▼答 福祉の里の定員増も含め生活介護事業の拡充を図るとともに、市内の入所施設を早期に整備したいと考えている。

市の防災体制

防災機能、減災、備蓄、訓練の考え

会党
議明
市公

▼問 防災体制や防災機能に対する考えは。

▼答 「市民の生命・財産を守る」ことは最優先すべきことで、自助、共助、公助におけるハード面とソフト面の両面の整備を予算に反映させる。

具体的には、インフラ整備や防災備蓄品の更新・充実、防災に関する知識・技能を習得するための総合防災訓練の実施、自治会における防災資機材の購入に対する補助、防災ひとつくり講座や防災キャンプなど人材育成に力点を置いた事業をさらに充実し、地域の防災力の向上を図る。

また、非常時に役立つ知識を伝えることは大切であると考え、防災キャンプなどにおいて、鍋で炊飯することも検討していきたい。

▼問 臨時福祉給付金の対象者と申請者数は。

▼答 平成26年度の対象者数は2万4499人、申請者数は1万9190人、78・3%であった。

平成27年度の対象者数は2万4090人、11月末の申請者数は1万7958人、74・5%である。

支給を受けられる方が申請の機会を失うことがないよう、さまざまな機会周知に努める。

▼問 子育て世帯臨時特例給付金の対象者と申請者数は。

▼答 平成26年度の対象者数は1万3042人、申請者数は1万2271人、94・1%であった。

平成27年度の対象者数は1万2530人、申請者数は1万2456人、99・4%である。

▼問 平成27年度に臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金の両方を受給された人数は。

▼答 1361人である。

市政を問う 一般質問

12月14日、15日の2日間で一般質問を行いました。
質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

津田忠孝、杉山元則、梅田利昭、水野盛俊、三丸文也、
大竹大輔、五十川玲子、波多野こうめ、岩田紀正、仙石浅香、
瀬川利生、坂澤博光、黒田昌弘、永治明子

行財政改革の総括

目標として掲げた項目をすべて達成

▼問 各務原市第二次新行財政改革大綱の取り組みの総括は。

▽答 大綱に基づき、6の分野で41の実施項目に取り組んできた。

その結果、目標として掲げた3項目「財政健全化判断比率の健全性の堅持」「プライマリーバランスの黒字の堅持」「経費削減・増収額等の目標数値19億9千万円」のすべてを達成した。

▼問 今後の行財政改革の取り組みは。

▽答 これまでのコストの縮減・効率化を主眼とした「量の行政改革」に、市民の満足度や納得感の

追求、成果重視の経営感

覚の浸透、職員の自発的な経営能力の養成など「質の行政改革」の視点を加え、方向性の転換を進めていく。

▼問 事業の廃止や縮小、統合などを検証する「事業棚卸し」の実施状況は。

▽答 市に裁量の余地がない事業や定期的に見直しを行っている事業を除き棚卸しを行った結果、継続210事業、廃止20事業、拡大7事業、縮小18事業となり、削減見込額は3千万円程度となった。

この結果を次年度以降の予算に適切に反映する

とともに、棚卸しの取り組みを平成28年度からスタートする新たな行財政改革の実施項目として位置付け、定期的の実施していく。

災害に備えて

▼問 災害が発生した際、より効率的・効果的に自主防災組織を機能させるための取り組みは。

▽答 自主防災活動における地域間格差や組織の活性化が重要な問題と認識しており、自主防災活動のリーダーを育成するため、防災ひとづくり講座や防災訓練、出前講座などを通じ、防災意識の向上や啓発を図ってきた。今後は、防災・減災に

ついて考えてもらう機会を増やし、災害に対する備えや自主防災組織活動への積極的な参加の必要性・重要性をさらに啓発しながら、家庭や地域における防災力の向上に努める。

▼問 緑陽中学校で行った総合防災訓練の成果と課題は。

▽答 今回の訓練は、従来よりも市民が体験できる内容を充実させており、新たに体育館に組み立て式の間仕切りを並べ、実際の避難所の状況を体験する訓練を実施した。

また、従来より実施している訓練参加機関や団体などの実働訓練についても説明員をつけるなど、見学する市民が内容を理解しやすい形にした。

訓練に参加した市民はより多くの防災知識などを学ぶことができ、大きな成果があったと考える。しかし、限られたスペースでの実施であったため、今後は訓練の内容に応じた体育館とグラウン



総合防災訓練で行った避難所体験

ドに振り分けるなど、スペースを最大限活用できるように検討していく。

▼問 災害時の対応を学習する手段であるクロスロード(災害対応ゲーム)を自主防災訓練メニューに加えては。

▽答 クロスロードを行うことで、災害時に適切な行動をするには、日頃から考えておくことが大切ということに気付いてもらえると考えている。

自主防災訓練や児童生徒に対する防災教育などの機会に行うことが効果的であるため、職員の進捗としての能力向上を図り、順次実行していく。

高齢者の外出をうながすための取り組み 地域での活動・居場所づくりを推進

▼問 高齢社会における地域公共交通について、どのように考えるか。

▼答 地域公共交通の充実により高齢者が出掛けやすい環境を整えることは、健康な暮らしを支えるほか医療費の抑制などにもつながり、非常に重要な施策となる。

単なる移動手段としてだけではなく、さまざまな面から地域公共交通が果たす役割はますます大きなものになっていくと考えている。

▼問 高齢者の外出促進を図るための取り組みは。

▼答 住まいの身近な場所での活動や居場所づくりを推進することが、外出促進につながると考えている。

そのため、地域での仲間づくりや生きがいづくりとして、シニアクラブや趣味のクラブ活動を支

援する。

また就労機会を提供するため、シルバー人材センターの運営や気軽に集える場として、地域住民が行うボランティアハウス活動に対して支援する。

▼問 平成27年10月にリニューアルしたふれあいバスと、新たに開始したふれあいタクシーの利用者数は。

▼答 10月・11月の2カ月のふれあいバス利用者数は、昨年より389



2地区で運行を開始したふれあいタクシー

6人増加し、3万577人となった。
ふれあいタクシーは、各務・須衛地区と鵜沼南地区合わせて670人、1日当たり約11人の利用があった。

今後の 介護予防事業

▼問 介護予防給付から地域支援事業（新総合事業）への移行に向けての対策は。

▼答 本市では、新総合事業を平成28年度より開始する。

現在の要支援者に対する「訪問介護」「通所介護」は、新総合事業でも同等のサービスを提供する予定だが、調理・買物・洗濯などの「生活支援」については、必要とする人が増えつつあり、サービスを提供する側を大きく上回ることが予測される。そのため、地域の実情にあったサービスの創設が必要であり、それぞれ



頭の体操教室（稲羽東福祉センター）

の地域の課題を洗い出し、対話を重ね、市の役割・地域の役割を明らかにし、地域との協働による「新たな地域づくり」を、団塊の世代が後期高齢を迎える10年後までに構築していく。

▼問 健康寿命を延ばすための取り組みは。

▼答 10年後の介護認定者を急増させないため、元気な高齢者を対象とした介護予防事業を実施していく。

その一例として、市内137のシニアクラブに対し「口腔に関する介護予防教室」を開始した。今後も、それぞれの身

体状況に合った介護予防事業のメニューを増やし、多くの人に参加してもらえるよう取り組む。

天狗谷の火災

▼問 平成27年10月27日未明に天狗谷で発生した火災の対応は。

▼答 火災発生後、防災担当部署が現地調査を行い、上水道担当部署が火災現場の近隣施設の断水に対応したほか、他部署においても現地調査や情報収集を行った。

住民には、火災に伴い煙が発生しているという情報を、災害情報スピーカーと市防災情報メールで周知した。

また、災害時応援協定に基づき、岐阜県・愛知県・福井県の防災ヘリと市建築工業協同組合の重機3台の出動など、関係機関の協力のおかげで被害を最小限に食い止めることができた。

米国エバレットコミュニティカレッジと連携

高度人材の育成、教育交流など

▼問 エバレットコミュニティカレッジと連携協定を結んだ目的は。

▽答 同大学は、世界有数の航空機産業集積地であるワシントン州エバレットにあり、航空機産業と深いかわりがある。

協定により、航空機産業をはじめとする市内産業界で必要とされる高度人材の育成やビジネスマッチング、技術支援、情報交換、教育交流など両者にとって有益な交流・



エバレットコミュニティカレッジ

連携を目指す。

▼問 連携協定により、今後どのような事業を検討しているか。

▽答 産業分野では、本市のものづくり企業の経営者や人材育成の担当者と同大学の高度技能教育センターの関係者との意見交換などを行うほか、短期留学制度を創設し、中核技術者の育成につなげていく事業を検討する。

教育分野では、中学生海外派遣事業のプログラムに取り入れることも一つの方法と考えている。

現地において本市で製造された部品が組み立てられている過程や完成した機体の見学や、日本文化の研究を実際に見聞きすることは、世界とのつながりを実感できるなど、国際理解教育においても大きな意義があるため、一つ一つ実現していく。

おもてなしの心をアピール

▼問 シティプロモーション推進の方向性は。

▽答 現在策定中のシティプロモーション戦略プランを基に、「かかみがはらブランド」を発掘・創造していくような事業を展開していく。

特にメディアプロモーションとして、市民が監督したCMを映画館で上映し、インターネット上でも公開していく。

▼問 夫婦の門出を祝うため、婚姻届を出された方に「お祝いカード」をお渡ししてはどうか。

▽答 「お祝いカード」をお渡しすることは、手元に記念として残ることから、現在検討中の本市のロゴマークなどを有効活用しながら、前向きに検討していく。

また職員から「婚姻届記念撮影パネル」設置の提案があり、パネルの前

で撮影した写真を結婚の挨拶メールとして発信することにより、本市のおもてなしの心を市内外にアピールできることから、併せて検討していく。

飛燕の先行公開

▼問 博物館のリニューアルオープン前に飛燕を公開する考えは。

▽答 川崎重工工業の協力のもと、現在行われている修復作業の様子を子どもたちに見学してもらうツアールを実施する。

さらに修復後、博物館に隣接する収蔵庫の中に飛燕を展示し、先行公開する。

▼問 飛燕という機体から、未来の子どもたちに伝えたいものは何か。

▽答 開発に携わった

技術者がこの地で繰り広げた「夢と挑戦の物語」や戦争に翻弄された先人たちの「平和への切なる願い」を子どもたちに語り継いでくれることを願っている。

生まれた場所に愛着を持ち続けるツバメ(燕)のように、各務原の子どもたちには、夢に向かって羽ばたき「ふるさと各務原」に誇りと愛着を持ち続けて欲しい。

▼問 本市で学ぶすべての小中学生に博物館を見学する機会を設けては。

▽答 リニューアル後は、市内小中学校の児童生徒が、卒業するまでに一度は必ず訪れてもらえるような取り組みを検討する。



博物館のリニューアルポスター

未来を担う子どもたち

寺子屋事業の内容の充実を図る

▼問 他自治体から広く注目されている寺子屋事業の成果は。

▼答 寺子屋事業は実施2年目に入り、さまざまな事業において成果が表れ始めている。

ものづくり見学事業では「すごい技術を持つ会社ばかりで感動した」、ふるさと歴史発見事業では「大昔の生活を想像できた」、福祉体験事業では「疑似体験で高齢者の不自由さが分かった」、小学校放課後学習室では「楽しい。次が楽しみ」などの声が聞かれた。

寺子屋事業により、地域を支える産業や歴史・伝統文化に触れたり、思いやりの心を持ったり、学ぶ楽しさを感じたりすることで、子どもたち一人一人に豊かなものの方や考え方がはぐくまれていると考えている。



坊の塚古墳の調査時の様子（鵜沼羽場町）

▼問 寺子屋事業の今後の取り組みは。

▼答 現在実施している事業を整理統合し、より内容の充実を図るとともに、基礎学力定着事業を中学生まで広げたり、発掘調査が行われた坊の塚古墳の見学やイングリッシュデイキャンプを実施するなど、あこがれや夢をはぐくみ、個性を伸ばし広げられるような事業を計画し、拡充に一層努めていく。

青少年の英語教育

▼問 英語教育の小中高連携への取り組みは。

▼答 中学校区の小中学校の教員が、お互いの英語の授業を参観し、校区で共通に取り組むことを明確にしながら、英語力を高める取り組みを行っている。

また、中学校の英語教員が高校の英語の授業を参観する機会もあり、中学校から高校へ英語教育が円滑に接続できるように取り組んでいる。



高校生と楽しく英語を学ぶ「レッツトライ」

不登校の児童生徒への取り組み

▼問 不登校の児童生徒に対し、どのように対応しているか。

▼答 児童生徒の小さな変化を見逃さずに声掛けを行うほか、生活ノートやアンケートなどから、悩みや不安を把握し相談に応じるよう努めている。

また児童生徒の欠席に素早く対応し、心のサインを見逃さないようにしており、遅刻した場合は「朝、家庭に電話する」、1日欠席した場合は「放課後、家庭に電話する」、3日連続で欠席した場合

さらに、小学校と高校の連携の形として今年度から実施している「レッツトライ」では、小学3・4年生の希望者が各務原高校の英語科生徒から英語の歌やゲームを教わり、高校生とコミュニケーションを図る喜びを体感している。

は「家庭訪問を行う」といった対応を行っている。既に不登校や不登校傾向にある児童生徒については、不登校対策委員会を開き、個々の状況に応じた支援を実施している。

▼問 訪問型の家庭教育支援の現状と今後は。

▼答 不登校児童生徒を支援するための家庭訪問は、まず各学校の学級担任や教育相談担当者、スクール相談員などが中心となり行い、本人に会えない場合は、学校関係者と適応指導教室「あすなろ」の指導員が協力して実施している。

それでも本人や保護者に会えない場合には「あすなろ」のリーフレットをポストに入れ、教育相談保護者会や臨床心理士による悩み相談の案内をするなど、相談や支援のきっかけづくりに努めている。

今後は、地域の力を生かした家庭教育支援の仕組みづくりを前向きに検討する。

「市議会だより」のアプリ配信開始

スマートフォン用アプリ「i広報紙」

「i広報紙」とは

現在冊子として配付している市広報紙や市議会だよりを、スマートフォンやタブレットなどで閲覧できる無料アプリです。

「i広報紙」は、いつでもどこでも、最新号からバックナンバーまで読むことができます。

ページめくりや拡大縮小、気になる記事のスクラップも簡単にでき、さらにはスクラップした記事をSNSでシェアすることもできます。

このような「i広報紙」で本市の「市議会だより」が読めるようになります。

「市議会だより」は平成27年11月1日発行の第160号から、「広報各務原」は平成26年11月1日号から配信しています。また、本市以外の広報紙も読むことができます。

「i広報紙」の登録方法

① QRコードの読み込み、または「App Store」もしくは「Google Play」にて「i広報紙」と検索し、ダウンロードします。

② 「i広報紙」を起動し、性別・生年月・お住まいの地域などを入力します。お住まいの地域を各務原市に設定することで、「市議会だより」を読むことができます。

③ 「利用開始」を押すことで登録完了となり、自動的に最新号が配信されます。

また、同時に「広報各務原」も配信されます。



QRコード

広告などについて

「i広報紙」は、株式会社ホープ（福岡市）が作成したアプリで、ダウンロード、利用ともに無料で行うことができます。

閲覧中にアプリ内に広告が表示されますが、この広告はアプリ運営のためのものであり、各務原市や各務原市議会とは関係ありません。

広告内容などに関して、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

また、パケット通信料や回線使用料は利用者の負担となります。



i広報紙

他市からの視察調査受け入れ状況

(平成27年)

全国から多数の地方議員が、本市の特色ある施策について、視察調査に來られました。

視察事項と自治体名は、次のとおりです。

寺子屋事業

北海道釧路市

群馬県伊勢崎市

千葉県我孫子市

兵庫県たつの市

兵庫県稲美町

山口県柳井市

愛媛県八幡浜市

佐賀県唐津市

大分県中津市

ブランド推進事業

栃木県宇都宮市

千葉県佐倉市

長野県須坂市

岡山県津山市

福岡県大川市

シティプロモーション

茨城県石岡市

まちづくり支援事業

香川県坂出市

ふるさと納税

岐阜県大野町

福岡県飯塚市

市営斎場「瞑想の森」

埼玉県川口市

水と緑の回廊計画

北海道帯広市



視察受け入れの様子



こんな街がいいな！

～わたしたちの夢・願い～

人生の思い出となる手続き



つつじが丘
内木 英一さん

3人の子どもの子育てパパです！

子どもが生まれると、特別な思いを込めて出生届を提出しますが、窓口は事務的な対応で寂しく感じました。

12月の本会議で「婚姻届記念撮影パネルの設置」の話がありましたが、婚姻届を出したことが写真として残り、一生の思い出となる素晴らしいことだと思います。

今後は、出生届のコピーを持って行くと家族で写真が撮れる「出生おめでとうパネルの設置」など、市役所での手続きが思い出となり「人生の記念日を各務原市で迎えたことを幸せに感じる」、そんな街になったと思います。

趣味の写真で地域のお役に



鵜沼羽場町
浅野 秀幸さん

私は写真を趣味にしており、いつもカメラ片手に出掛けています。

写真を撮るきっかけとなったのは、各務原市の中央図書館で開催されていた写真展を見たときに、とても心が温かくなったことが始まりでした。

私も人の心を温かくできるような写真を撮ってみたいと思い、季節の花や地域の行事をカメラに納め、お世話になった仲間のいつときの安らぎとなってくればとの思いで、定年退職した会社の食堂に飾らせていただいています。

これからも、「元気な街 各務原」で私も元気に地域と職場に恩返しをしていきたいと思っています。

音楽の街 各務原



松本町
荻谷 龍一さん

キラキラと輝くトランペットとの出会いは、13歳の私にとって衝撃的なものでした。

そっと息を吹き込んでみても、始めたばかりの私には当然いい音は出ません。

悔しさをバネに猛練習し、吹けるようになると、自然と自信が出てきました。

高校でも社会人になっても楽器を演奏する機会に恵まれました。

各務原市は音楽にも力を入れているおかげで、中学校の吹奏楽部は盛んに活動できております。

今後ますます、街中に音楽が溢れるよう、生徒たちとの触れ合いに感謝しつつ、未来を次の世代に託したいと思います。

市議会を見にきませんか？

平成28年3月定例会の日程（予定）

2月25日	本会議 開会
3月9日・10日	本会議（質疑、代表・一般質問）
3月14日～17日	常任委員会
3月23日	本会議 閉会

※日程は議事の都合により変更になる場合があります。

スマートフォンでも視聴できます



本会議の録画映像に加え、生中継の映像もスマートフォンなどのタブレット端末で、ご覧いただけるようになりました。

ひびく

▼ツバメは、安心できる場所に巣をつくりまします。そして、その子どももふるさとに帰ってきます。各務原を旅立って、たくましく育った子どもたちが「夢とチャレンジ」を誇りに未来に向かって羽ばたくように「飛ぶ燕」よ、胸を張って帰ってこい。（瀬川利生）

▼議会では、自由な意見が出されるだけでなく、時には「びっくりぽん！」の発言もあります。ここで登場するのが、「暫時休憩」です。議事進行をどうするか協議するもので、言葉は休憩でも、休みではありません。（坂澤博光）

市議会だより編集委員会

委員長 仙石 浅善
副委員長 大竹 大輔
委員 黒田 昌弘
委員 岩田 紀正
委員 瀬川 利生
委員 坂澤 博光



環境保護のため植物インキを使用しています。